学校便り
No.２４

二天一流

令和７年１０月２９日（水）
文責：池田　誠

先日実施しました運動会では、たくさんの保護者の皆様にご観覧いただき、誠にありがとうございました。競技や演技に一生懸命に取り組んでいるお子さまの姿をご披露できたのではないかと思います。

さて、大きな行事が終了すると、今まで張りつめていた子どもたちの集中が切れることがあります。どの学校でもそうなのですが、運動会の後は子どもたちの落ち着きがなくなり、授業に集中できなくなったり、生徒指導事案が起きたりする傾向が見られます。

そこで、落ち着いた学校生活が継続できるよう、教職員に向けて次の３つのことを話しました。

授業の充実を図ろう

学校生活の基本は授業です。子どもたちにとって「学びが楽しい」ことが、一番効果のある学級経営の要素です。もちろん、運動会の練習期間中に授業を疎かにしていたわけではありませんが、練習に時間を取られてしまうため、腰を据えた授業づくりが困難だったのも事実です。教職員へは、本校の研究テーマの３つの視点をさらに意識した授業を行ってほしいと伝えました。

① 「学びたい」が育つための課題設定の工夫
- 子どもたちの興味や関心、意欲が高まるような課題を設定すること

② 「学びたい」が育つための対話（アウトプット）の工夫
- ペアやグループで対話したくなる発問や問い返しをすること
- 効果的な思考ツールを活用すること（ICT 等）

③ 「学びたい」が育つためのふり返りの工夫
- 自分の変容やクラスメイトのよさが分かる振り返りの工夫をすること

上記の視点を意識した授業が展開されることで、子どもたちも集中して授業に参加できると考えます。

アンテナを高くしよう

普段から子どものつぶやきや授業中の様子、休み時間の様子をしっかり観察し、気になることがあったら声をかけるよう、教職員に伝えています。子どもの小さな変化を見逃さないために、次のことにアンテナを張っています。

○　子どもたちの表情・態度・言葉遣い・服装・持ち物
○　子どもたちの友人関係・テスト結果・学習意欲
○　子どもたちの健康面（腹痛・頭痛・食欲不振など）
○　専科や学級支援員からの情報
○　保護者からの情報提供（連絡帳や電話でお知らせください。）

気になることがあったら、子どもに声をかけ、同学年部の教師や養護教諭、生徒指導担当や管理職と情報を共有するよう伝えています。

子どもたちの不安や悩みをいち早くキャッチし解決することで、落ち着いた学校生活を送れるよう取り組んでいきます。

凡事徹底（ぼんじてってい）を図ろう

運動会の練習にどっぷり浸ってしまい、当たり前なこと（凡事）ができなくなってしまっている児童が見られるのもこの時期です。次に挙げる１０の項目は、子どもたちが学校生活を送るうえで当たり前に行ってほしいことです。教職員には徹底するよう伝えていますが、良い習慣を取り戻すためには家庭での協力も不可欠です。お子さんができているか確認し、疎かになっている項目がありましたら、アドバイスしていただけると幸いです。

当たり前１０か条（学校生活編）

１　さわやかなあいさつをします。
- あいさつは人と人とが仲良くなる基本です。（お家の人、友達、先生、地域の人）

２ 何かをしてもらったら「ありがとう」を言います。
・「ありがとう」は自分も相手もうれしい気持ちになります。
３ 悪いことをしたら「ごめんなさい」と言います。
・誰でもまちがえます。心から謝ることが大事です。
４ 人が傷つくことをしません。
・いじめ・悪口・無視・殴る・蹴る等。
５ 丁寧な言葉をつかいます。
・相手を敬う心が育ちます。
６ ゴミが落ちていたら拾います。
・美しい環境で気持ちよく学習できます。
７ 使ったものは元に戻し、ちらかしたら自分で片付けます。
・「自分のことは自分でやる」「物事を最後までやりとげる」ことの出発点です。
８ ルールを守り、ズルをしません。
・みんなから信頼されます。（時間　廊下歩行　遊び方　等）
９ 命に関わる危険なことはしません。
・自分を大切にします。自分を大切にできると他の人も大切にできます。
10 靴やスリッパはきれいにそろえます。
・落ちついた行動につながります。心もそろいます。

「凡事徹底」はパナソニック創設者の松下幸之助さんの言葉です。当たり前だと思っていることを、手を抜かずに徹底してやり抜くことで、「平凡から非凡になる。」という考え方を表しています。

徹底の仕方を間違うと、子どもたちとの信頼関係を壊すことがあります。教職員には、子どもたちが自然に、かつ、楽しみながらできる徹底方法を考えるよう伝えました。
凡事を徹底することで、子どもたちが日常生活のよい習慣を取り戻し、落ち着いた楽しい学校生活が送れると考えています。